

■ご挨拶

理事就任に際しまして

日本風力発電協会 理事 末永 孝
J-POWER 電源開発(株) 環境エネルギー事業部長代理



はじめに

第 15 回臨時社員総会にてご承認頂き、今回初めて当協会の理事に就任致しました。微力ではありますが、当業界全体の発展に少しでも貢献して参りたいと考えております。皆様にはご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

自己紹介

1988 年、三和銀行（現三菱東京 UFJ 銀行）に入行し、1994 年から 5 年間、シンガポールに駐在、主にアジアでのプロジェクトファイナンス業務を担当しました。帰国後、2000 年からは銀行の証券子会社に出向し、顧客企業の資金調達や M&A のお手伝いをさせて頂きました。実は、この頃の重要顧客の 1 社が J-POWER であり、これが縁となり転職に繋がりました。

2008 年、弊社に入社、環境エネルギー事業部で国内外の風力発電所の事業管理に従事しました。2012 年、FIT 導入に際しての切換え作業を一通り終えたところで、国際営業部に異動となりました。

2012 年から 4 年半は、インドネシアのセントラルジャワ石炭火力プロジェクトの開発に従事しました。このプロジェクトは土地取得が難航し、計画が大きく遅延するなど、苦難の連続でしたが、お蔭様で昨年 6 月にファイナンス・クローズを達成し、現在建設が進んでいます。

そして昨年 9 月より、再び環境エネルギー事業部に配属となりました。

尚、出身は宮城県の仙台市。趣味は剣道です。将来、「全日本風力事業者剣道大会」を開催するのが夢の一つです。

4 年半ぶりに古巣に戻って感じたこと

昨年 9 月、4 年半ぶりに古巣の環境エネルギー事業部に戻り、再び風力の仕事に携わっています。4 年半の間で弊社の国内での風力発電の出力規模は約 10 万 kW 拡大し、約 45 万 kW となり、管理する地点数も 24 地点となりました。

また部内の人員構成も経験の長いベテラン人材とやる気と体力に満ちた若い人材が融合し、より活気のある職場になったように感じます。

一方、国内の新規地点の開発を着実に、かつ加速化して進めていくことや、既設の地点数が増加していく中で、より効率的に風車の保守・メンテを行い稼働率の向上を図ることなど、事業を拡大させていく上での課題も山積している状況です。

カギを握るのは洋上風力

さて、これからの日本の風力発電の飛躍的な導入量拡大を考えると、カギを握るのは洋上風力であろうと思います。陸上地点の更なる開発、既設地点のリパワリングによる規模拡大に取り組んでいくのも勿論ですが、日本のエネルギーミックスにおいて、風力が重要な地位を占めるためには、洋上風力、特に一般海域での洋上風力を如何に拡大させていくかに掛かっていると考えます。

現在、弊社はコンソーシアム企業の一社として、北九州市響灘洋上での風力発電の事業化調査に取り組んでいます。国内初の大型商業洋上風力事業となる本案件を何としても成功させ、将来の一般海域での洋上風力拡大への礎としたいと考えています。

おわりに

2011 年 3 月の大震災、福島原発事故を境に日本のエネルギー業界を巡る環境は一変し、再生可能エネルギー、なかでも風力に対する期待感が高まるばかりでしたが、FIT 制度導入から 5 年が経過し、業界全体が一大転換期に差し掛かっているように思います。

こうした時機に当協会の理事に就任させて頂いたことは何かの「ご縁」と感じています。頂戴したご縁に感謝しつつ一生懸命取り組む所存です。何卒宜しくお願い申し上げます。